

おおさき福祉のページ

vol.147

編集製作／社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
 〒989-6154 宮城県大崎市古川三白町二丁目5番1号
 大崎市古川保健福祉プラザ(プラザ)1階
 TEL 0229(21)0550 FAX 0229(24)1158
 URL https://www.osaki-shakyo.com
 製作協力／株式会社大崎タイムス社

令和6年度

おおさき福祉の心コンクール

主催：社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会・大崎市共同募金委員会
 後援：大崎市教育委員会・大崎タイムス社
 大崎市ボランティア連絡協議会・大崎市民生委員児童委員協議会
 大崎市障がい者福祉協会・大崎市老人クラブ連合会

入賞おめでとうございます

次世代を担う小・中学生を対象に福祉に関する作品に取り組みを通じて、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高め、「思いやり」や「支えあい」の心を育むことを目的に、令和6年度おおさき福祉の心コンクールを実施いたしました。
 福祉作文コンクール：福祉川柳それぞれの部門に、合計670点の作品を応募いただき、ありがとうございました。入賞された皆さまをご紹介いたします。(敬称略)

◆福祉作文の部(小学生下学年の部)

◆最優秀賞 古川北小学校 三年 森川 絢斗

◆優秀賞 松山小学校 三年 畑中 來望

◆優良賞 古川第三小学校 二年 猪又 愛椰

古川第三小学校 一年 鈴木 葵

◆福祉作文の部(小学生上学年の部)

◆最優秀賞 古川第三小学校 五年 伊藤 胡桃

◆優秀賞 古川西小中学校 六年 門間 正宗

◆優良賞 古川第二小学校 六年 遠藤 きい

岩田山小学校 六年 安達 煌

◆福祉作文の部(中学生の部)

◆最優秀賞 古川黎明中学校 一年 千葉 結愛

◆優秀賞 松山中学校 三年 三浦 彩楓

◆優良賞 古川東中学校 三年 藤元 隆輝

松山中学校 一年 三浦 元氣

◆福祉作文の部(小学生下学年の部)

◆最優秀賞 古川第五小学校 三年 大場 葵生

◆優秀賞 川渡小学校 三年 湯山 花鈴

◆優良賞 岩田山小学校 一年 菅根 美結

鬼首小学校 一年 後藤 花音

◆福祉作文の部(中学生の部)

◆最優秀賞 古川黎明中学校 二年 佐藤 零南

◆優秀賞 古川黎明中学校 二年 佐藤 零南

◆優良賞 古川黎明中学校 一年 福田 真弥子

古川第五小学校 六年 瀨ノ上 結愛

松山小学校 五年 垣崎 叶愛

【福祉作文の部】小学生下学年の部 最優秀賞

古川北小学校 三年 森川 絢斗

「ぼくの気持ち」
 ぼくは、2年生の10月に左足首、12月に右足首をサッカーの練習中にこつてしまいました。そのときの体けんからかんじた、ぼくの気持ちをつたえようとおもいます。足首をこつてしまっているあいだ、小学校へはおとうさんと、おかあさん、おじいちゃんにおくりむかえをしてもらいながら登校しました。小学校の中では、まっばつえを使って歩きました。家族と買い物にでかけるときは、長いきよりを歩くと足がいたくなるので、車いすを使いました。学校でだいいすきなサッカーや体育のじゆ業ができなくてとてもたいくつでした。それに自分でおもうように動けなかったり車いすは大きくてスペースがひつようで大へんでした。ぼくは、みんなのじやまになつてはいないかとおもっていました。そんなぼくを見て、友だちは「だいじょうぶ？」「なにかでつたう？」「声をかけてくれました。きゅう食時間、ぼくのぶんの食をせきまでとんでくれたり、朝や帰りの時間ランドセルをロッカーにはこんだり、持つてきてくれたりしました。ぼくは、とてもうれしかったことをおぼせています。いつもは、はずかしくてなかなかいえないけれど、ありがとうを友だちにうたえました。友だちも、うれしそうにわらっていました。ぼくは、ありがとうをつたえたら心の中がほっとしてあたたかくなりました。もしかしたら友だちも「なにかでつたう？」と声をかけてくれるのは、ドキドキしていたかもしれないとおもいます。ぼくもまわつていたり、つたいがひつような友だちがいたら「なにかできることはない？」と声をかけてあげられるようになりたいです。そうしたら、ぼくのまわりにはありがたうがあふれてたすけあう人たちがたくさんふえてくるとおもいます。これがぼくのけがをしてはじめて気づいた気持ちです。この気持ちをわすれないで、こまつている人がいたらたすけてあげたいです。

【福祉作文の部】小学生上学年の部 最優秀賞

古川第三小学校 五年 伊藤 胡桃

「わたしの耳はお姉ちゃんの耳」
 三年前、つらなお姉ちゃんの両耳の聞こえが悪くなりました。お姉ちゃんは学校からの帰りと、中、めまいと耳鳴りがして耳がふさがつたような感じがしたそうです。あわてて仕事から帰ったお母さんと病院に行った結果は、両耳の「とう発性なんぢょう」でした。お姉ちゃんはいまは、はき気がして横になることが多くなりました。そして、学校を休むようになりました。いつも明るく「行つてきます。」と家を出るお姉ちゃんのすがたがみられなくなつてわたしはすごく悲しい気持ちになりました。それから少しづつお姉ちゃんは治りようのために入院することになりました。はなればなれの間、わたしはすごく不安で心配なお姉ちゃんを助けたい気持ちでいっぱいでした。入院後、めまいと耳鳴りはよくなりましたが、耳の聞こえはあまり良くありませんでした。お姉ちゃんはいまもなごやと思つています。わたしは自分のできることは何かと考へました。耳が聞こえないお姉ちゃんにできること、それはわたしがお姉ちゃんの耳になることだと思つきました。お姉ちゃんには、よばれても気づかないことがあります。そんな時はかたをたたいて「よばれてるよ。」と大きく口を開いて伝えます。また早くだつたりやがむがむ不安になるのは買物をする時です。レジで何を聞かれないか分らないことがあります。ふくろはいるかどうか、ポイントカードがあるかどうか、しほはら方法は何か、わたしがお姉ちゃんの耳になつてかわりに聞いて、身ぶり手振りを使って伝えています。お姉ちゃんはいまは、そんなお姉ちゃんのお顔が大好きです。「胡桃、買い物いよいよ。おかし買つてあげる。」とさそつてくれるようになり、そんなお姉ちゃんのお顔が大好きです。わたしは、この経験で不安な気持ちになつていない人や落ちこんでいる人が笑顔になることはとてもうれしくて幸せなことだと改めて気づきました。今までも自分が助けてもらった時、うれしかったけれど自分こまつている人を助けることができた時、うれしい気持ちになること知ることができました。わたしはこれからもお姉ちゃんのささえになります。そして周りのこまつている人を助けて笑顔の連を作っていきます。

【福祉作文の部】中学生の部 最優秀賞

古川黎明中学校 一年 千葉 結愛

「支えられた挑戦」
 私の右足は義足だ。私が義足を使い、学校に通い始めたのは四年生。その約二年後、六年生になった私は、ある挑戦をした。それは、小学校最後の運動会の徒競走に参加することだ。五年生の終わり頃、最後の運動会では何か挑戦したいと考へていた。徒競走に「たむる」必要はないが競走用義足に興味があったため、走ることに挑戦することにした。私は、母に相談し、グレイドラングというスポーツ用義足を用いた練習会に参加した。そこでは、私より小さい子供や選手として活躍している方など様々な人が来ていた。普段、義足を使っている人が集まることのないため、緊張したが「所懸命練習をした。慣れない競走用義足を履きながら、大きく義足を振りださないとけず、苦戦した。練習会では走り後にはいかに「一歩」に近づけるかができた。私は、走り「近づいた」とやる気に満ちていった。休みの日や学校後に練習を重ね、短い距離ではあるが走れるようになった。学校では新しいクラスから「ヶ月」ほどたち、運動会の練習が始まった。運動会では同学年に走っている様子を見せる。私は、新しい姿を見せるのが怖かった。同級生の反応も不安だ。私が密かに不安を感じていたのは、転校生の友達はどういう反応をするのか。六年生になった際に転校生がきた。そのため、私の義足のことを知っているかさえ曖昧でどのような反応をされるのか緊張していた。不安を感じていた日、六年生の運動会練習で一緒に練習する日がきた。義足を付け替えると気が引き締まるような気持ちになる。視線が向けられていることに緊張しながらも「一回短い距離を走った。走り終わると、友達が駆け寄り、きいてくれた。友達が拍手をしてくれたり、嬉しい言葉をかけてくれた。驚いたことに転校生の友達も駆け寄り、笑顔で「トポーズ」をつくりながら「グッドジョブ。」と言ってくれた。予想外の言葉と反応に驚いたが、とてもうれしかった。そして、環境に恵まれていることを改めて感じた。友達や先生、言葉が、私に自信をくれた。運動会当日、練習の際より人が多く不安になった。ピストルの音と共にスタートし、「生懸命走る」ことが出来た。小学校最後の運動会は、思いに残る運動会になった。義足になり、走っている姿を見つめることしかできなかった私が沢山のの人に支えられ、走ることに挑戦することができた。今も義足のことについて悩むことも多い。けれども、支えてくれる友達や家族がいる。支えてくれる人の感謝を忘れずにこれからも恐れず、挑戦していきたい。私の挑戦は沢山のの人に支えられ、成功に終えることができた。

福祉ポスターの部

小学生下学年の部 最優秀賞



古川第五小学校 三年 大場 葵生

中学生の部 最優秀賞



三本木中学校 一年 手嶋 優衣

小学生上学年の部 最優秀賞



川渡小学校 六年 湯山 乙月

福祉川柳の部

なれるかな
 手をつないだら
 あなたの目
 三本木小学校 二年 佐々木 蓮斗

赤い羽根
 みんなの思い
 羽ばたかせ
 古川西小中学校 六年 村上 実優

多様性
 認めてみんな
 心地よく
 古川黎明中学校 二年 佐藤 零南



※入賞作品については
 当会ホームページで
 ご覧いただけます。